

## 属性調査とは:

日本分子生物学会男女共同参画委員会では、学会のシンポジウムでの発表者やオーガナイザーの女性比率は、学会員全体における女性比率と比べて低いのではないかと疑問を持ち、2009年度から年会発表者の属性、年齢、職階、発表カテゴリー、等(属性)を調査しています。

## 属性調査の目的:

大学や研究機関での男女共同参画を推進するためには、学術研究発表の場である学会において、優れた研究は性差に関係なくスピーカーやオーガナイザー等、目で見える形で発表の機会を与えられ評価される仕組みを作ることが必要です。そこで年会における発表者の実態調査を毎年行い、学会員の属性ならびに発表カテゴリーごとの発表者属性について、基礎データを収集することが目的です。

## 属性調査の方法:

年会演題登録時に演題登録者が入力画面に従って、解答いただきました。本年の年会については、一般演題:2,903題、ワークショップ:360題、シンポジウム:27題、の登録が行われました。属性調査への回答:一般演題:99.2%、ワークショップ:51.2%、シンポジウム:40.0%

## 第35回日本分子生物学会年会(MBSJ 2012)開催概要

会期:2012年12月11日(火)-14日(金)  
会場:福岡国際会議場・マリメッセ福岡 他  
年会長:阿形清和(京大)  
演題募集期間:2012年8月1日-31日

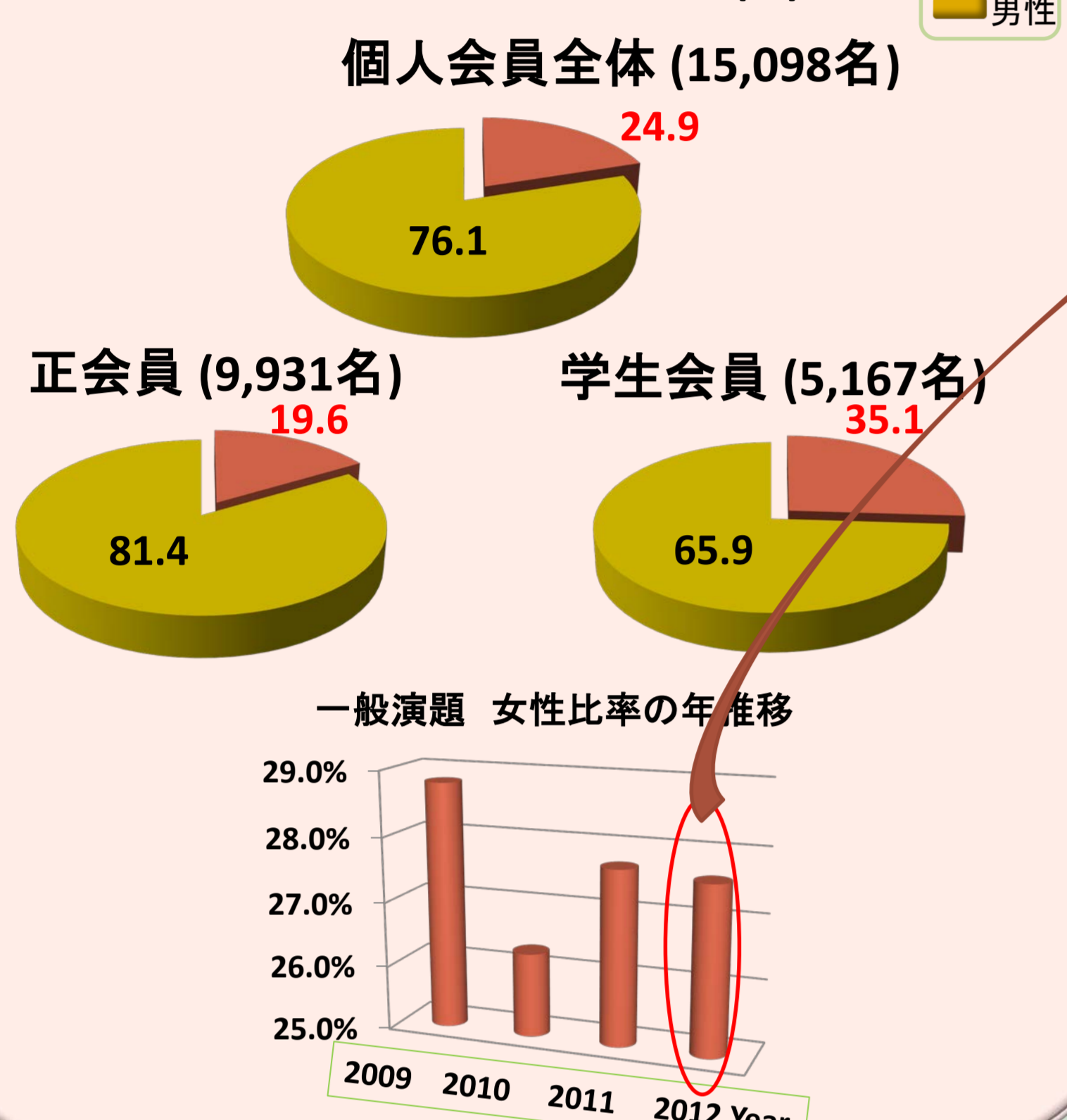


日本分子生物学会男女共同参画委員会  
委員長 後藤由季子 副委員長 塩見 春彦

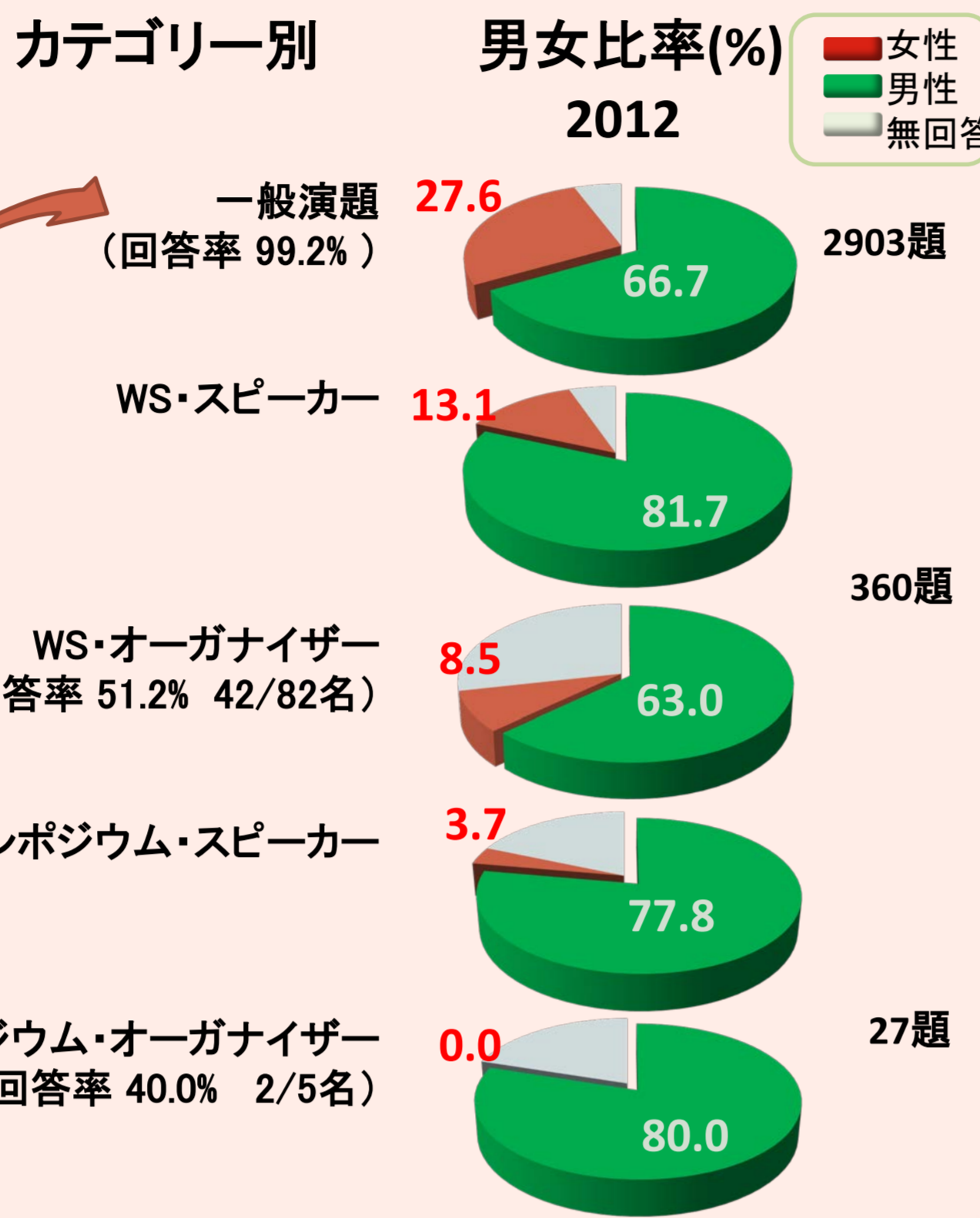
\*第3回大規模アンケートお知らせ  
○実施期間:平成24年11月1日(木)~12月14日(金)  
○アンケートURL: <https://wss2.5star.jp/survey/index/n3dd5zyv/4134/>  
今回のアンケートには、女性の社会進出や子育て、介護問題のみならず、特に、ポスドクや若手任期付職の問題点を重点的に調査することも重要な目的としております。本アンケートは回答数の大きさ(前回は2万人規模)に意味があり、その結果が政府の基本政策にも反映されました。是非、おひとりでも多くの方のご回答をお願い申し上げます。

## 日本分子生物学会会員 男女比率

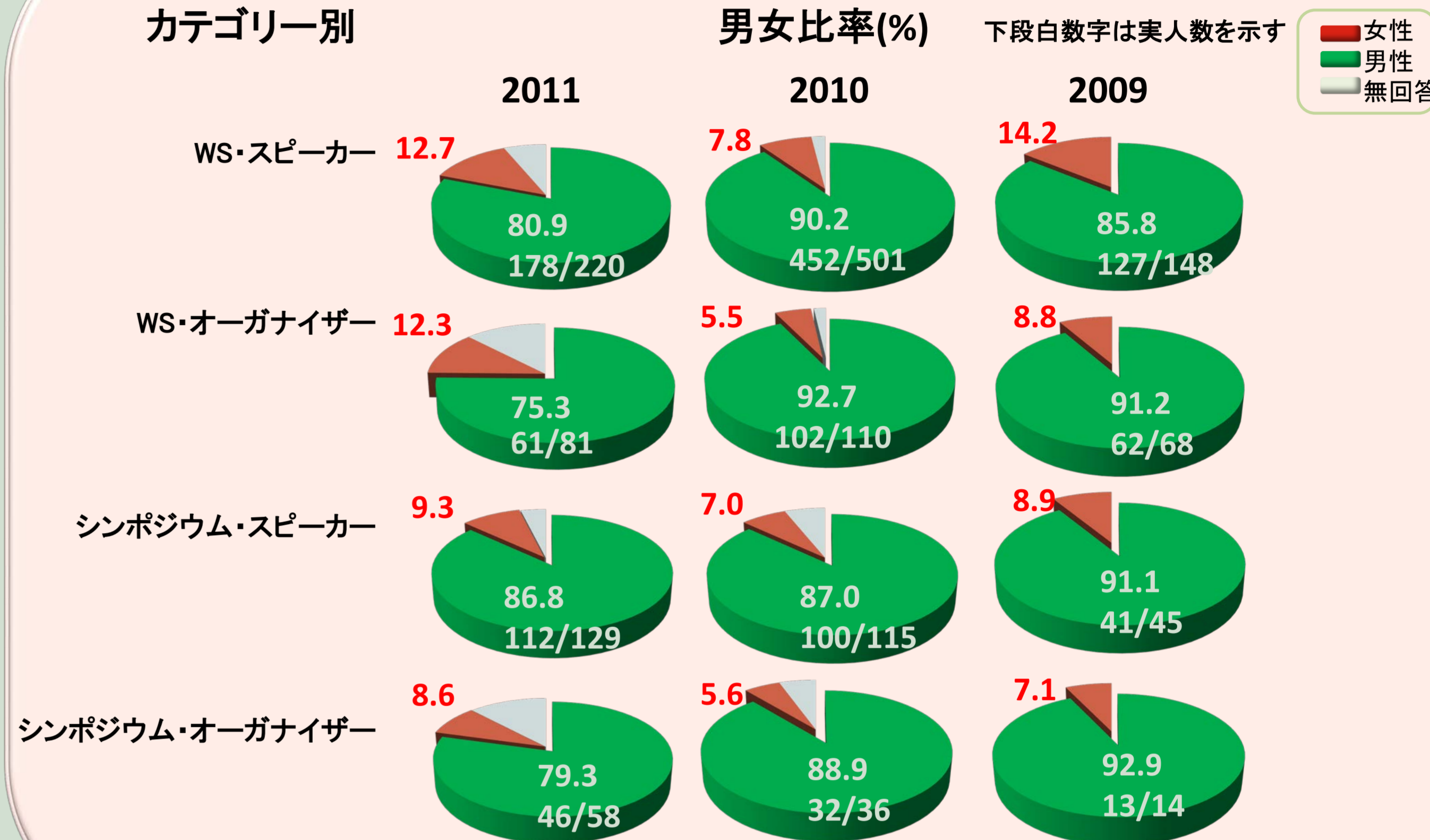
2012年8月31日現在 (%)



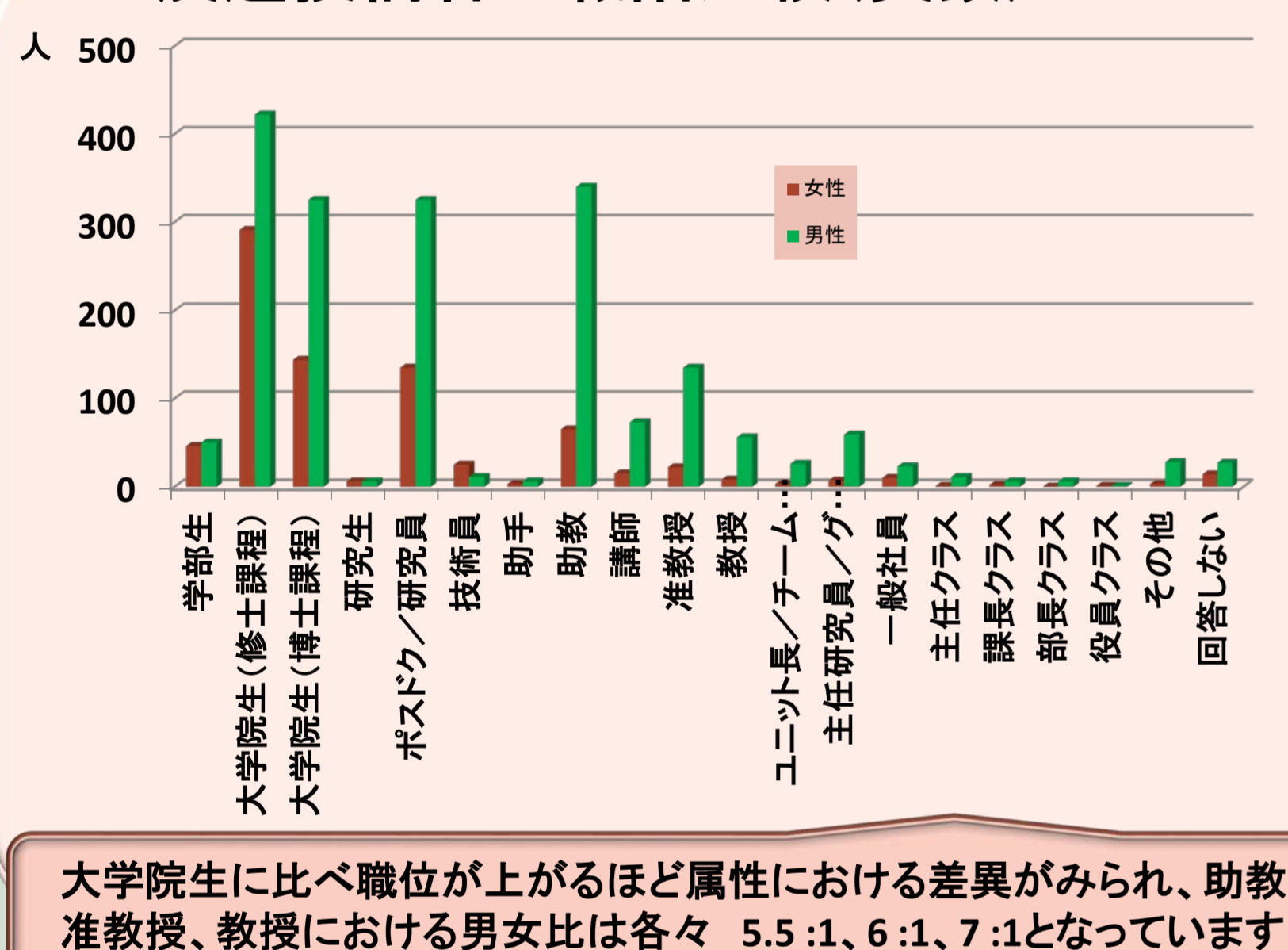
## 第35回日本分子生物学会年会



## WS/シンポジウム 過去年会との比較



## 演題投稿者の職階比較(実数) 2012

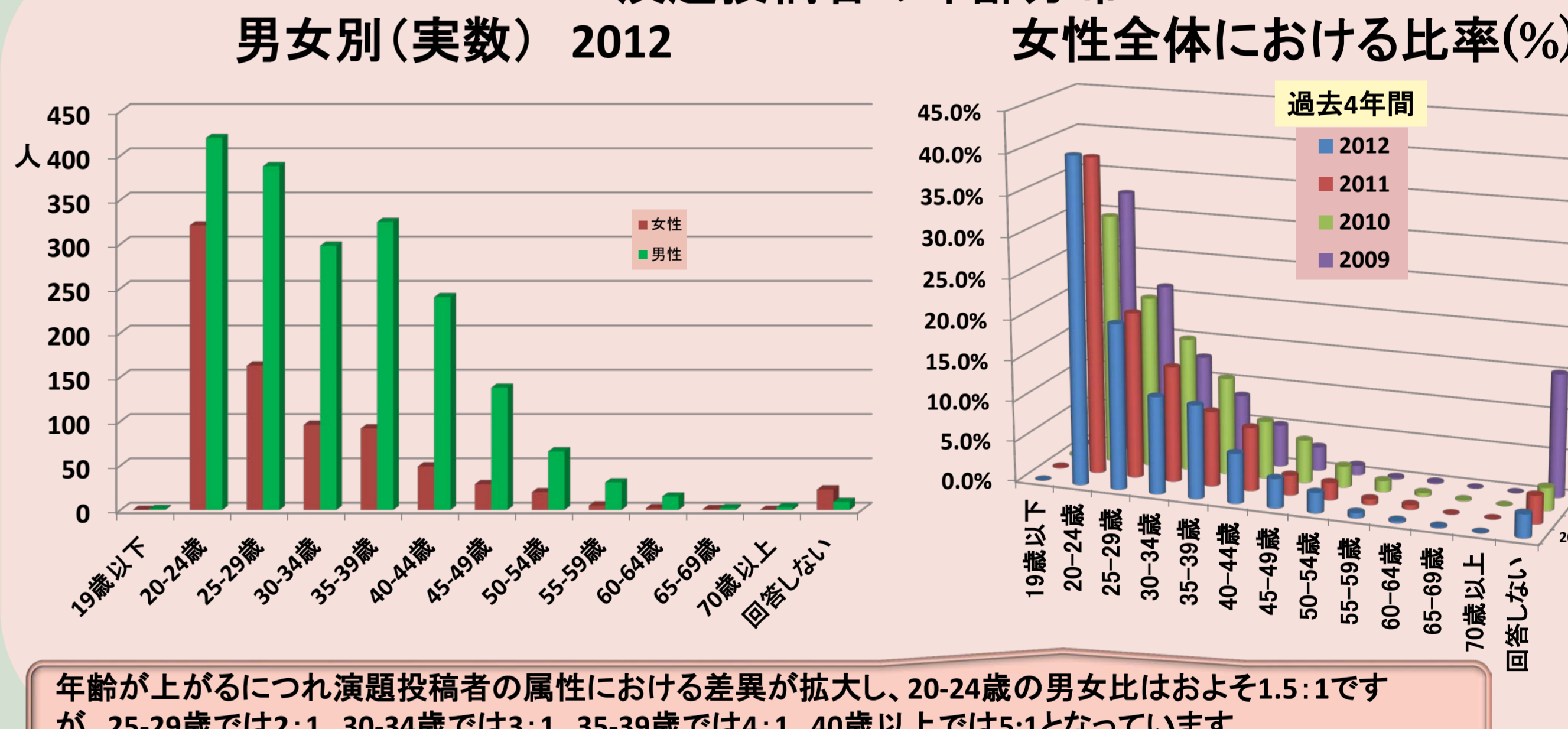


大学院生に比べ職階が上がると属性における差異がみられ、助教、准教授、教授における男女比は各々 5.5:1、6:1、7:1となっています。

## 属性調査 まとめ

- 2009年の調査開始以来、一般演題発表者の女性比率は、26~29%の範囲で推移し、会員全体の比率と比べほぼ同等です。
- ワークショップ(WS)/シンポジウムのスピーカーとオーガナイザーについて、それぞれの過去データを区別して再集計し、経年変化を比較しました。
- 2012年はWS/シンポジウム、いずれも会員全体と比べ女性比率が低い状況ですが、回答率を上げ正確なデータを得ることも課題です。年推移も観察されることから、積極的呼びかけによる上昇が期待されます。

## 演題投稿者の年齢分布



年齢が上がるとつれ演題投稿者の属性における差異が拡大し、20-24歳の男女比はおよそ1.5:1ですが、25-29歳では2:1、30-34歳では3:1、35-39歳では4:1、40歳以上では5:1となっています。

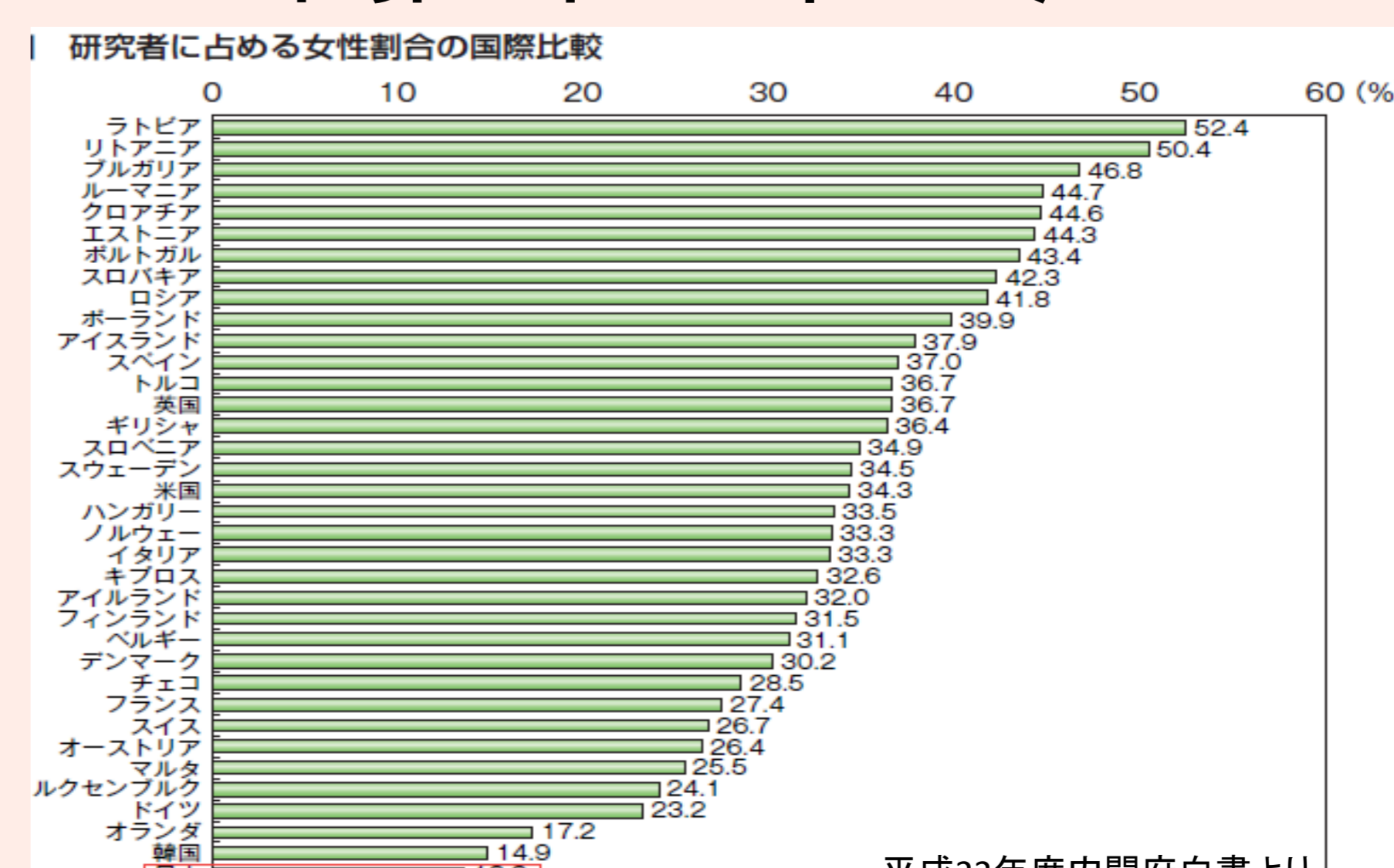
## 男女共同参画に関する 日本分子生物学会のあゆみ

年度	活動内容	取組
2001	第24回年会保育室 設置ワーキンググループ(WG)	ライフイベントへの支援
2002	小川智子、大坪久子 日本分子生物学会男女共同参画WG 第25回日本分子生物学会年会 男女共同参画WS開催	年会参加者層のすそ野の拡大
2003	学協会連絡会第1回大規模アンケート調査WG	非常勤職員の学術振興会
2004	提言「研究助成への申請枠拡大」 提言「子育て支援型研究員制度」	研究費申請資格を可能に
2005	公聴会「男女共同参画基本計画改訂作業への意見集約」 提言「ライフサイエンスにおける男女共同参画の推進」 調査報告「科学技術系学協会における女性比率」 提言「科学者・技術者人材のさらなる活用に向けた整備」 企画参加「第1回女子中高生 夏の学校」 調査報告「学協会等における女性比率・活動の年次推移」 学協会連絡会 第4期幹事学会担当 (大隅委員長)	特別研究員RPD制度
2006	大隅委員長 調査報告「RPD制度に関するwebアンケート」 要望「女性研究者支援モデル育成事業 継続と予算拡大」	モデル事業の開始
2007	企画参加「第1回女子中高生 関西科学塾」 学協会連絡会第2回大規模アンケート調査WG 調査報告ならびに要望の提出 特別研究員-RPD制度に関するwebアンケート 企画参加「第3回女子中高生 夏の学校」 要望「女性研究者採用と昇格に対する数値目標の設定」	数値目標の設定
2008	企画参加「第2回女子中高生 関西科学塾」 報告書「学協会連絡会第2回大規模アンケート」 報告書「科学技術系専門職における男女共同参画実態大規模調査計画に反映」 要望「女性研究者支援モデル育成事業の推進と拡充」 要望「第4期基本計画、第3次共同参画基本計画へ意見集約」	モデル事業 加速プログラム
2009	杉本委員長 報告書「バイオ系専門職における実態の大規模調査分析」 要望「科学技術分野での男女共同参画推進に向けて」	数値目標の維持
2010	分子生物学会年会 女性比率調査第1回 分子生物学会年会 女性比率調査第2回 学協会連絡会WG「学会におけるリーダーシップ活動」	属性実態調査開始
2011	後藤委員長 分子生物学会年会 女性比率調査第3回	課題の提示
2012	分子生物学会年会 女性比率調査第4回 学協会連絡会第3回大規模アンケート調査WG	

## 要約

- わが国では男女共同参画社会基本法(1999)をはじめ、女性の社会活動への参画促進、女性の能力を活用するための施策が数値目標を掲げて行われています。
- 分子生物学会が、研究者実態調査の柱として年会参加者を対象に行った「属性調査」は、性差に関わらず研究者の活躍を促す目的で開始したものです。2009年来的結果から、本会会員が属する性(属性)と、シンポジウム等目で見える形で活躍する研究者の属性との間には、大きな開きがあることがわかりました。他のWG活動から得られた調査結果と総合し、浮き上がった課題のひとつは、「意識改革の必要性」です。男女共同参画委員会では年会企画テーマに取り上げるなど、会員皆様と双方向の議論を試みているので今後も発信を続けていきます。
- 科学分野の各学会における取組みを連携させる仕組みとして「男女共同参画学協会連絡会」が2002年に組織され、日本分子生物学会は当初より中心的役割を果たしています。女性研究者の活用と活性化のための活動、国の施策に反映させるための活動として、数々の提言や要望書活動を積極的に行ってきました。施策へも反映された例として、大学機関等モデル事業や、復帰支援事業(RPD制度)等の整備が実際に行われました。その基礎力となっているのが、研究者実態データの収集・解析を目的とする、大規模アンケート調査です。これまでに、2003年 2007年に実施され、約20,000人の回答が得られました。現在、第3回大規模アンケート調査を実施中ですので、ひとりでも多くの方のご協力をお願いいたします。

## 世界の中で日本は 今..



(備考) 1. EU諸国等の値は、EU(Eurostat)より作成。確定値、暫定値を含む。アイスランド、スロバキア、ロシア、チェコは2008(平成20)年、イタリア、フランスは2006(平成18)年、ギリシャは2005(平成17)年、スイスは2004(平成16)年、オランダは2003(平成15)年、他の国は2007(平成19)年時点。  
2. 日本の数値は、総務省「平成22年科学技術調査報告書」に基づく(2010(平成22)年3月31日現在)。